

リベラメンテケーブルを聴く（５）

—まとめ—

１．リベラメンテをどこに繋ぐか—まとめ

リベラメントとその他の現在生き残っているケーブルとを比較試聴してみると後者に何が不足していたかが分かりました。また、それ以前に使っていた著名ブランドケーブルには何が余分に付け加わっているかが分かりました。以上は、プリアンプへのデジタル入力系、アナログ入力系およびプリアンプからパワーアンプへの引き出しすべてに言えることです。

即ち、リベラメントは弦楽四重奏の演奏の品位から大編成フルオーケストラの怒涛の総奏まで過不足なく再現してくれます。なにより有難いのは、最近導入した EMT982 と GPS-777 がベースとなってリベラメンテの追加により演奏会で聴いてきた演奏の CD 再生が実際の演奏会の雰囲気それをらしく再現してくれるようになったことです。

以上、リベラメンテはどこに繋いでも、ベルカントの音調をベースに、音の立ち上がり、立ち下りのトランジェントを改善し、潤い感と切れ込みをバランスさせ、GPS-777 のクロック入力で向上した音の分析能力で追い込んだ軌跡が伺えます。敢えて言えば、微弱信号のアナログ入力系の方が、デジタル入力系よりリベラメンテの力を発揮していると言えるかもしれません。

２．再生方法の比較—まとめ

PC オーディオは、USB-201 に ABS-7777 からクロック入力してこれで満足していたところ、GPS-777 で大きな変貌を遂げました。ブルーレイレコーダーの BS 録画は、同軸デジタルアウトを ABS-7777 からクロック入力した CRV-555 経由で結構満足していましたが、これまた GPS-777 で満足度が向上し、BS 録画に拮抗できるのは、ハイレゾ音源を USB-5 から USB-201 経由で再生する場合くらいであると思っていました。

長年失望の対象で苦勞してきた CD 再生は 20 年来使ってきたスイングアームメカのマランツ CD95 のデジタルアウトから GPS-777 クロック入力の CRV-555 経由の再生が限界と見極めていたのが、インフラノイズのデモで GPS-777 クロック入力したスチューダーを聴いてその効果に仰天し、クロック入力のあるプロ用 CD 再生機 EMT982 を探しだし、GPS-777 クロック入力での CD 再生の限界を大幅に押し上げることができました。さらに、これらすべてのデジタル再生がリベラメンテで一層向上しました。アナログは一昨年念願の LINN の LP-12 を入れて自分としての到達点はここまでと思っていたのが、リベラメンテをフォノ入力に使ってあっさり到達点を押し上げてしまい

ました。

敢えて言うならば、GPS-777 クロック入力にリベラメンテが加わったことで「再生系すべてが第一集団」の中に入ってしまったというブレークスルーを達成したことです。すなわち、これらの再生方法の比較では、音源やちょっとした条件や聴き方のポイントの違いで「抜きつ、抜かれつ」という状況になります。ついこの前まで、CD は駄目だ、PC オーディオでないといかん、CD はブルーレイレコーダーの BS 録画に及ばないなどと思いこんでいた不明を恥じ、安易な限界の見極めや方式の序列をつけることは危険と感じた次第です。

以上、要約すると、リベラメンテはどこに繋いでも良く、どのような再生方法でもうまくはまり込むものと言えます。また、以上の印象はもっぱらクラシックを対象にしていますが、他のユーザーの反応をブログなどで拝見すると多様な音楽ジャンルでも受け入れられているようで、文字通り [liberamente]=[自由に]ということでしょう。

以上